

■児童・生徒の学力の状況

今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語科では、知識及び技能の観点の問題が苦手な児童が多く、「言語の特徴や使い方に関する事項」と「情報の扱いに関する事項」の両方とも苦手としていることが分かった。算数科では、知識技能、思考・判断・表現に特段有意差はなく、全国平均は上回ったが、都の平均は下回った。領域別では「数と計算」が正答率が低くなっていた。これらのことから、知識や基礎基本の計算がまだ定着しておらず理解不足であるということが分かった。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 自己選択、自己調整を取り入れた授業を行っているが、定着までには至っていない。
- 学習課題を解決するための見通しを立てることに苦手意識をもつ児童が多く、自分の考えを発想する手立てが少ない。
- 知識・技能を定着させるための繰り返し学習が不足している。
- 児童がその授業で習得した知識を概念的に捉え、発表させる手立てが少ない。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- ・板橋区授業スタンダード、板橋区授業スタンダードSに基づき「主体的・対話的で深い学び」を行う。課題に向かい自己対話で思考する場面や、ペアやトリオ学習などの協働学習で思考する場面を意図的・計画的に設定する。学習したことをまとめ、発表する場面でICT機器を効果的に活用する。学び合いを通して、学びに向かう姿勢や思考力・判断力・表現力を高める。
- ・児童の学習状況を的確に把握する。小中9年間を見通した基礎的・基本的な知識・技能の定着のため、少人数指導の利点を生かしたTT指導や個別指導、教室環境の工夫を行い、補充的な指導を充実させる。さらに一人一台端末を活用し、学習の理解度にそった指導と繰り返し学習によって知識・技能の定着を図る。
- ・教科書を活用し、読み解く力の育成のために意図的な指導の中で基礎的な読む力の育成を図る。さらに、計画的に視写や音読、共書きを授業の中や宿題に位置付ける。朝の時間や寄宿舎での読書を推奨する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダード、 板橋区授業スタンダードSの実践	視点2 読み解く力の育成	視点3 自己調整の場面の設定
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。	○基礎的読解力の6分類等の明確な視点をもって教科書等を読み取る場面を設定する。INPUT→THINK→OUTPUTを授業の中に設定し、特に子どもが主体的にOUTPUTする場を大事にする。	○学習方法を選択し、自己調整しながら児童が主体的に学習できる授業作りをし、将来にわたって学び続けられるような学習方法を身に付けさせる。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 キャリア教育の充実	いたばしiカリキュラム 児童を真ん中に据えた教育の実現	ICT環境の適切な活用 個別最適な学びの推進
○学びのエリアの中で情報交換を行ないながら、環境教育や健康教育を推進していく。 ○地域の特色を生かしたキャリア教育を推進し、高学年を中心に、農園や総合病院、水族館等で職業体験を行う。 ○学校・寄宿舎が連携して情報共有し、児童の児童にあたることで、豊かな人間性を育む。	○自分の習熟度に合った問題集を帯時間や自習時間に取り組み、苦手克服や得意を伸ばす。取り組んだ量で表彰を行い、児童の意欲を高める。（マイスタ） ○授業中、児童が自分に合った学習方法を自己選択・自己決定できるような場面を設定し、学習を自己調整しながら進められるようにする。 ○「自己選択・自己調整」の観点を踏まえた校内研究を進め、研究授業を行う。	○児童からアンケートをとる際、Web回答アプリを活用し、学習内容を生かしたまとめ方や発表方法ができるようにする。 ○既習事項を生かして調べたことをまとめる際には、プレゼンテーションソフトを活用し、発表できるようにする。 ○オンライン授業を取り入れ、在宅時でも学習に参加できるようにする。